

こんな時どうする 子ども防犯教室

——安全対策を自分のものに——

京都市立桃陽総合養護学校 校長 河角 美典
〒612-0833 京都府京都市伏見区深草大亀谷岩山町48-1 Tel (075)641-2634

I 学校規模及び地域環境

1 学校規模

- (1) 学級数 小学部 10学級
 中学部 10学級
- (2) 児童生徒数 児童 30名
 生徒 43名
- (3) 教職員数 48名

2 地域環境

本校は京都市南東部の小高い山の峠付近に位置し、周りは畑や竹やぶが点在する住宅地である。学校には広い森もあり自然豊かな立地条件である。最寄の公共交通機関としては、JR藤森駅、地下鉄六地藏駅、京阪墨染駅があり、いずれも徒歩で20～30分かかる。いわゆる学校前までの公共交通機関はない。主な通りは墨染⇄八科峠⇄六地藏に通じる道で、車の往来も多くドライバーが児童生徒に声をかけやすい条件がある。以前に女子生徒が男性ドライバーに「遊びに行かないか」と声をかけられたことがあった。外泊時に自宅へ一人で帰る場合は、それらの道を通ることになる。道の周辺は住宅街で、そこを外れると人通りも少なく人目に付きにくいところもある。

分教室、訪問教育を除き、本校の児童生徒は京都市桃陽病院（学校に隣接している）に入院しており、毎日病院から登校している。登下校については、徒歩1分程で見通しもよく安全である。

II 取組のポイント

前述したように、普段、児童生徒は安全に通学できる環境にある。また、病院の職員、看護師、ドクター、ガードマンと連携をとり、安全に登下校できるようにしている。

しかし、外泊時に自宅へ帰っていくときは安全とは言えない。児童生徒の自宅は京都市内だけではなく、他府県にも及んでいる。帰宅する経路は

それぞれちがうが、たくさんの危険がある。自分でいろいろな危険を回避できるようになることが、自分で自分を守る上で大切である。そのため、いろいろな場面を想定して安全対策を自分のものにする必要がある。そこで子ども防犯教室を開催するにあたって、次の三点に留意した。

- ・児童生徒の身近な問題を取り上げる。
- ・わかりやすく！
- ・児童生徒と共に作り上げる。

III 取組の概要

1 取組の趣旨やねらい

子どもの安全を守るためには、どうすればよいかと考え、平成15年度より教職員が色々な役を舞台上で演じる「子ども防犯教室」を開催している。本教室では、児童生徒に「こんなとき、どうすればよいか」を考えさせ、正しい防犯対策を教え、危険を回避し、安全な行動がとれるように考えた。

そこで、3年目になる今年は、児童生徒も舞台で役割を演じるという経験の場とした。



【熱演？を見ている児童生徒の様子】

2 取組の内容、計画、方法等

(1) 取組の計画

要項作成 実施日の決定

主な内容の決定

↓
(登場人物、場面設定、主なせりふ及びそのねらい)

教職員に提案 概要説明



スタッフ募集（児童生徒、教職員）

監督、登場人物、ナレーター



音響、放送、記録、カメラ、ビデオ
撮影、小道具、掲示物作成

スタッフ打ち合わせ

具体的な検討、変更、決定



場面設定、せりふ、動きや位置

ナレーターの解説とタイミング

衣装、小道具、音響、場面の練習

舞台リハーサル

発声を適切に



ナレーターを中心とした全体の流
れの確認

こども防犯教室 本番

(2) 取組の内容、方法等

「こんなときどうする？」をキーワードとして
次の場面を設定した。

ア ～知らない人から尋ねられたとき～

車に乗った人が、歩いている一人の少女に声をかけます。

車に乗った人

「あの…ちょっと…スミズメ駅はどこか教えて
くれませんか」

少女（車に近づかないで、離れる）

「まっすぐ行けば分ります」

車に乗った人

「もうちょっとくわしく教えてほしい」

少女

「それ以上は分りません。」

「大人に聞いてください。」



【練習風景】

ナレーター（会場の児童生徒に考えさせる）

「みなさん 声をかけられた少女はどうしたで
しょうか？」（間をあける）

「そうです、車から離れましたね。それでいい
のです。絶対に車に近づいてはいけませんよ。
車に引っ張り込まれるかもしれません。」

イ ～身に危険を感じたとき～

公園で二人の少女が遊んでいます。そこへ知らない
青年が近づいてきます。

知らない青年

「何してんの？楽しそうやな！」

少女

「……無言」

知らない青年

「お兄さん、おもしろいゲーム持ってるよ。見
せてあげようか」

少女

「いらん！」

知らない青年

「おいしいケーキもあるよ。ついておいで！」

少女

「いらん！！」

（逃げようとするが、一人の少女が手をつかま
れ、引っ張られる）



【手をつかまれ、引っ張られる】

二人の少女（大声で叫ぶ）

「助けて！助けて！！」

（同時に一人の少女は防犯ベルを鳴らす）

騒ぎを聞きつけてお母さんが現れる。

知らない青年は逃げて行く。

お母さん

「大丈夫だった！けがしてない？怖かったね。
どんな人だったか覚えてる？…」

お母さん（110番通報する）

「子どもが今…」

（状況をくわしく連絡する）

ナレーター（会場の児童生徒に考えさせる）

「もう少しで連れて行かれるところでしたね。みんなはこんな時どうしますか？」（間をあける）

「この二人の少女のように、大声で助けて！と叫べますか。みんなで一緒に練習してみましょう。」

（しっかり声のでるまで、何回も声を出す練習を繰り返す）

「次に大事なことは逃げることです。そして、大人に知らせることです。」

「みんなは今、防犯ベルを持っていますね。一度鳴らしてみましようか。それでは1、2の3！」（実際に鳴らし、その後注意点を伝える）



【防犯ベルを鳴らす練習】

（ア）カバンの外側など、すぐに鳴らせるところにつける。

（イ）防犯ベルがあるからといって、安心ではない。

（ウ）大切なのは、一人歩きをしないこと。暗い場所や寂しいところを通らない。どうしても通る時は防犯ベルを手に持って歩く。

（エ）もしもの時は、大声をあげて逃げる。

（オ）普段は、むやみに鳴らさない。

（カ）電池が切れていないか時々調べる。

ウ ～家へ知らない人が訪問したとき～

少年が家に一人です。その時、ピンポン！
誰か知らないおばさんが来ました。

少年（インターホンで返事をする）

「はい、誰ですか」

知らないおばさん

「こんにちは。おじゃまします。お母さんの友だちです。ちょっと開けてちょうだい。」

少年

「ちょっと待ってください。」とドアを開けようとする。



【知らない人が訪ねてきたときの練習風景】

ナレーター（会場の児童生徒に考えさせる）

「今、少年はドアを開けようとしています。みんなならどうしますか？」

ナレーター（少年に正しい対応を教える）

「知らない人にはドアを開けない。『あとで連絡します』と答え、家族や警察に連絡する。」

エ ～学校へ訪問者が来られたとき～

学校へ訪問者が来られました。それを見つけた生徒は「こんにちは」と声をかます。

訪問者

「あのう、ここは桃陽総合養護学校ですね」

生徒

「はいそうです。どんな御用でしょうか？」

訪問者

「私は〇〇と言います。以前、お世話になった担任の先生が居られると聞いて会いに来ました。」

生徒

「何先生ですか」



【訪問者へ正しい対応をする生徒】

訪問者

「〇〇先生です。おられますか」

生徒

「居られるか分かりませんが、職員室へ行ってください。玄関に入って右です。」

ナレーター（生徒の対応を認め、同じような対応ができるように、観ているみんなに促す）

「知らない人にもしっかり挨拶をしていましたね。みんなもちゃんと挨拶できるでしょうか。先生たちも必ず挨拶するようにしています。そして用件やお名前を確認します。不審者でないことを確認してから、校内へ入ってもらうようにしています。この少年はよくできていました。」

オ ～学校に不審者が侵入したとき～

知らない人が校庭でウロウロしているのを、遊んでいる児童生徒が見つける。

児童生徒

「あの人何してんのやろう？」「なんかへんやね」（やってきた先生に）

「先生、不審な人があそこにいる。」

先生（不審者二人の様子を見て）

「ほんまやね。グラウンドに不審者がいると職員室の先生に連絡してきて！」

（児童生徒に頼む）

生徒は、職員室（舞台下）へ急ぐ。



【職員室に連絡をする児童生徒】

先生（不審者に声をかける）

「どちらさんですか？どんな御用ですか？」

不審者（悪態をつく）

「どうでもええやろ！なんでこたえなあかんね」

そこへ連絡を受けた教職員が駆けつける。

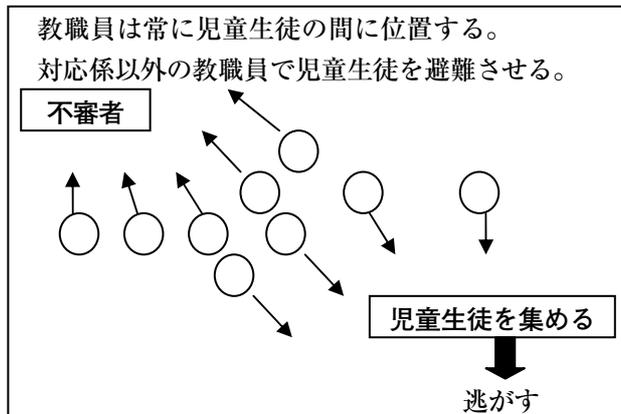
不審者への対応係の教職員を先頭に対応する。

このような場合、遊んでいる児童生徒と不審者の間に教職員は位置する。

不審者への対応係の先生（退去をもとめる）

「何の用事で来られましたか？用事がないのなら今すぐに校外へ出てください。」

不審者は指示に従わない。



【児童生徒を避難させるための教職員の位置】

不審者への対応係の先生

「〇〇先生！警察への出動要請を入れるよう校長に連絡をしてください。」

校長は110番通報をする。

その間に他の教職員は児童生徒を集め安全な方向へ逃がす。その時も、常に教職員は児童生徒と不審者の間に位置する。

不審者は暴言を吐き、ついにはナイフを懐から取り出す。

教職員はナイフを持った不審者にむやみに近づかない。

安全な距離を取りながら、近くにあるものを使って防御する。

身の安全を保ちつつ時間を稼ぐ。

その間に、まず児童生徒を安全な場所に避難させる。



【不審者と児童生徒の間で対応する教職員】

不審者はナイフを持って児童生徒の方へ行こうとする。

教職員は机やイス、ほうき、モップなどを使って不審者と対峙する。



【身近な用具を使って時間を稼ぐ】

そこへ警察官が到着し不審者を逮捕する。

不審者が危害を加える恐れがあれば、教職員は体を張って児童生徒を守る。

ナレーター

「危険な時、先生たちは体を張ってみんなを守ろうとしています。しかし、危ない時は、まず、近づかないこと。急いで安全な方向に逃げるようにしてください。」

カ ～公園で知らない人に誘われたとき～

公園で女の子が遊んでいます。そこへ知らないおじさんがやってきました。

知らないおじさん

「あのね、おじさんの飼っている子犬がいなくなって困っているんだけど、一緒に探してくれない！白かわいい子犬だけど、その木のあたりにいるかもしれないので、一緒に探しに行こうか。」(手をつないで連れて行こうとする)

ナレーター (会場の児童生徒に考えさせる)

「それを見たあなたはどうしたらいいでしょうか？」

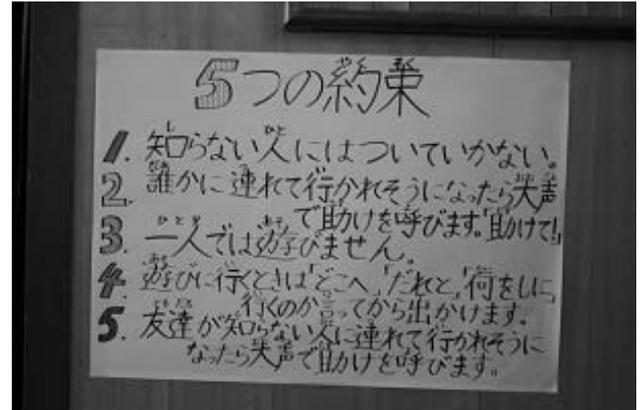
「すぐ、近くにいる大人に、不審なおじさんが女の子を公園の木の陰に連れて行ったと知らせましょう。」

「最後に5つの約束を見てください」

次の1～5を読みあげ、みんなと復唱する。

- ・知らない人には、ついていきません。
- ・誰かに連れて行かれそうになったら、大声で助けを呼びます。

- ・一人では遊びません。
- ・遊びに行く時は、「どこへ」「だれと」「何をしに」「何時に帰るか」を言ってから出かけます。
- ・友だちが知らない人に連れて行かれそうになったら、大声で助けを呼びます。



【5つの約束】

3 実践の成果

今までは全ての役を教職員が演じていたが、今年度はじめて7人の児童生徒が舞台に立った。自分から進んで出演した者がほとんどだった。

その感想は次のようなことだった。

- ・すこしは緊張した。
- ・声が出にくかったが、練習して出るようになった。
- ・何を言ったらいいか。どのようにしたらいいかが分からなかった。
- ・出演して面白かった。

舞台上で演じる時間はほんの数分だが、それまでのセリフ決定、動きの確認等の練習を通して、その立場になった時の恐怖心や驚き、あせり、不安などを感じたのはいい経験になったと思われる。

その他の児童生徒は観客として、各場面を観て、多少なりとも身近な出来事、起こりうることとしてとらえ、その対策をより詳しく学んだのではないかと思っている。それが実際の場面に遭遇した時、舞台での演技が記憶に残っていて、「あってはならない万が一」に対応できる安全な行動がとれるように願っている。

4 課題等

例えば道を尋ねられた時、「本来なら親切丁寧に答えると、相手の人も喜ぶだろうね。そうしなさいよ。」と教えるべきなのに、「人を見たら疑え！」と教えなければならぬつらい側面がある。

防犯対策として、子どもたちに指導すると同時に、道路照明等の環境面の整備、社会全体としての道徳心の向上、大人への規制等の強化が必要だと考える。

観客からは、時には笑いが起こり、一見、真剣さに欠けるようにも見たが、それ以上に「自分ならこうする」と考え、演技を見ることで防犯を身近に感じてくれたように思われる。

なお、これまでは本校のみの取組となっていたが、今後は、分教室、訪問教育の児童生徒に、テレビ会議システムやビデオレター等を通して登校するすべての子どもの防犯教室となるようにしていきたい。

今後の課題はたくさんあるが、現在の社会情勢をふまえ、これから取り上げてみたいと考えている場面を紹介し、まとめとしたい。



【子ども防犯教室のまとめ】

今後取り上げてみたい場面

- (1) 繁華街で、一人座り込んでいる小学生を見つけました。さあ、あなたならどうしますか。
- (2) 電車の中でおじさんにくっつかれている女子中学生を見ました。
- (3) 夕方の帰宅途中。自宅まであと少しですが、知らない男があとをつけてきます。
- (4) 自宅前、カバンから家の鍵を取り出そうとしている様子をじっと見ている人がいます。
- (5) 今日は家に誰もいないことがわかっていて一人で帰宅しています。どんなことに注意すればいいですか。
- (6) 一人で家にいるとき電話がかかってきました。
「おかあさんが交通事故で…〇〇病院へ今すぐ来なさい」と言われた。
- (7) 不審な人に声をかけられたとき、知らないおじさんが助けてくれた。家まで送ろうと車

に乗るよう言った。

(相手は一人とは限りません)

- (8) 自転車に乗っているとき、バイクがゆっくり後から近づいてきます。
- (9) 困ったときには、「こども110番のいえ」へ。「こども110番のいえ」の場所を覚えていますか。
- (10) いつも同じ人がつけてきます。見張られていると感じます。(ストーカー対策)
- (11) 一人でエレベーターに乗るときは、どんなことに気をつけますか。